

---

# 君へ～届かぬ想い～

夢野花香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君へ〜届かぬ想い〜

### 【Nコード】

N2136T

### 【作者名】

夢野花香

### 【あらすじ】

色の消えた世界を生きてきて、僕はもう我慢できなくなったんだ。君がいない人生に、良いことなど何一つない。だから、君に届くかもわからないけれど、ありたっけな想いを君に綴るよ。言葉じゃ届かないかもしれないけど、この想いだけは届きますように。そして、君に会えますように。それだけを願って。

君は寒いのが苦手だったよね。

寒い冬に一緒に出かけるときには必ず僕の手を握ってくれた。

室内にいても、寒いと君は僕に抱きついてくる。

だから僕は、寒い冬が大好きだったんだ。

あの日も、寒い日だった。

クリスマス・イヴという、町中が光って見えるような夜だった。

恥ずかしそうにミニスカートを身に纏った君は、何よりも美しく  
ったよ。

僕の目には、目の前で光輝くイルミネーションよりも君は輝いて  
見えただ。

寒い、と君はいつも通り僕の腕を絡める。

僕がどれだけ嬉しかったのかを、君は知らなかっただろう？

君は笑っていた。

ずっと、楽しそうに僕に微笑んでいるんだ。

この幸せを手に入れるのは、簡単とは言えなかった。

苦勞して、沢山の時間を要して手に入れた、貴重な幸せだったのに。

そんな幸せを、僕は一瞬にして失った。

信号は青だったよ。

僕らは何も悪いことなんてしてなかったよ。

信号は絶対に守らなきゃいけないんだよ、という君の声が今でも頭から離れない。

君は間違ってたなかった。

悪いのは君じゃなくて、向こうの人なのに。

どうして信号を無視した向こうの人が助かるのだろう。

どうして君が犠牲にならなければいけなかったんだろう。

向こうの人を責めるといふ感情はなかった。

そんなことよりも、僕の中には君を失った悲しみしかなかった。

向こうの人がどんな罪になろうと、僕には関係ないよ。

僕に必要なのは君以外にないのだから。

そんな君を失ってしまったんだ。

僕はどうすればいい？

こんな不公平な世の中を、君なしで生きていける自信がないよ。

君さえいてくれればそれで良かった。

君さえいてくれるのなら、僕から何を取っても構わなかったのに。

どうして君を奪ったのだろう。

よりによって、どうして君を………？

君は今頃何をしているのかな。

今すぐ君に会いたい。

もう僕には失うものはないから

僕から何を奪っても良い。

一分でも、一秒でも構わないから。

君に会わせてくれ。

君を失ってから、僕は生きた感じがしないんだよ。

僕は知ったんだ。

僕は、君がいたからこそ生きていたのだと。

君を失った今、僕に生きる意味はないのだと。

僕はあの日から、寒い冬が大嫌いになってしまった。

寒い冬に必ず感じられた、君をぬくもりを感じられなくなってしまったから。

君のぬくもりが恋しいよ。

だからね。

君に会いに行こうと思うんだ。

僕はもう決めたよ、決めたんだ。

君は、怒るのかな。

愛してるよ。

11の気持ちで、君に届きますように。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2136t/>

---

君へ～届かぬ想い～

2011年10月5日18時29分発行